

SBIグループ At a Glance

SBIグループは2007年3月31日現在、当社及び連結子会社48社(うち12組合)、持分法適用会社13社より構成されています。SBIグループは、主に金融業の分野である、ファンド運営事業を中心とする「アセットマネジメント事業」、証券業務を主とする「ブローカレッジ & インベストメントバンキング事業」、及び様々な革新的金融サービスを提供する「ファイナンシャル・サービス事業」の3つのコアビジネスを中

セグメント区分

連結売上高に占める売上構成比
(2006年3月期及び2007年3月期、%)

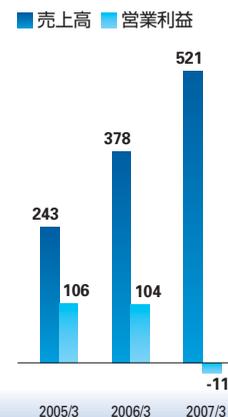
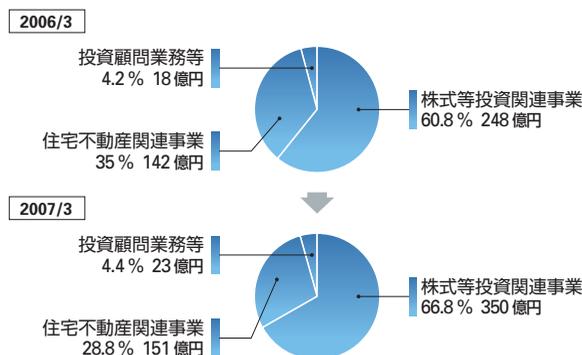
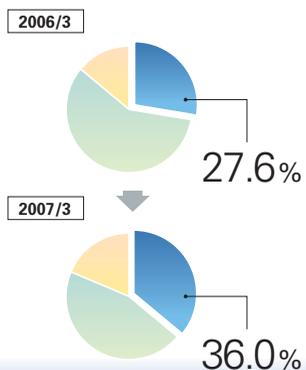
セグメントにおける売上高

(2006年3月期及び2007年3月期)
(単位: 億円)

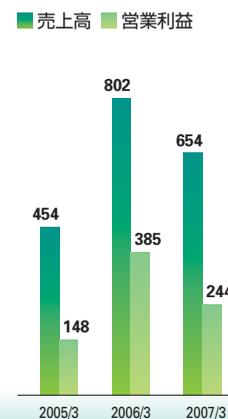
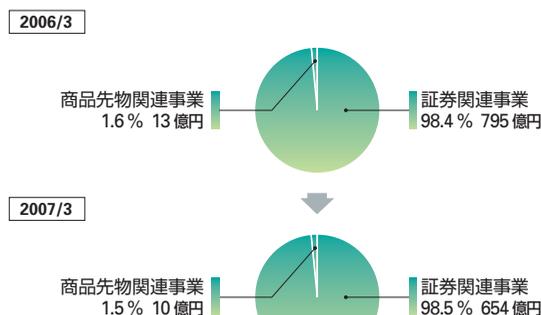
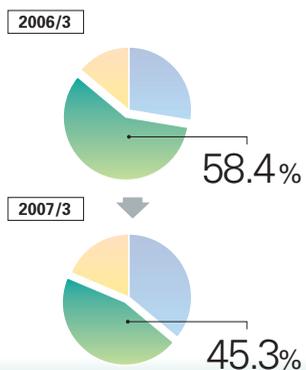
業績

(単位: 億円)

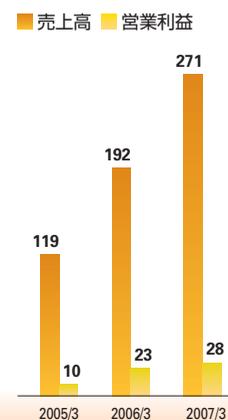
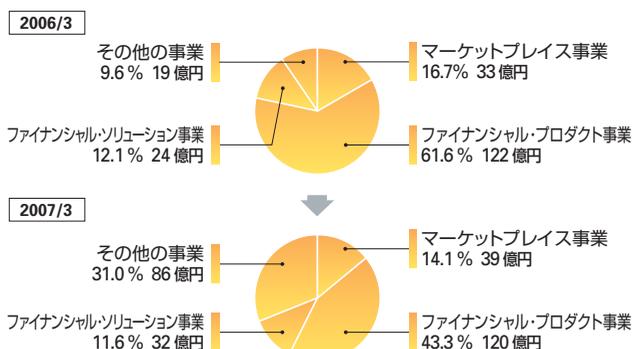
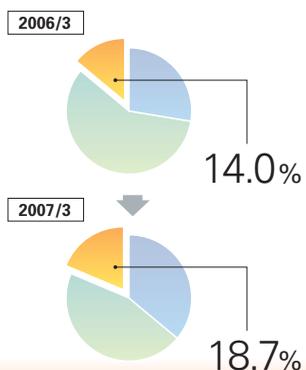
アセットマネジメント事業



ブローカレッジ & インベストメントバンキング事業



ファイナンシャル・サービス事業



核的事業として事業展開しています。2008年3月期からは、「住宅不動産関連事業」をセグメントとして分離し第4の事業分野を確立するとともに、「生活関連ネットワーク事業」を新たなコアビジネスと位置づけ、金融と非金融分野を併せ持つ5つのコアビジネス体制へ進化してこうとされています。

2007年3月期のハイライト

名実ともに日本におけるベンチャーキャピタルNo.1に

- ITファンドの償還に目途をつけ、多額の成功報酬とキャピタルゲインを獲得しました。営業利益は291億円でしたが、特別利益に計上されたキャピタルゲインを合算した税引前当期純利益は667億円となりました(※従来方式、ファンド連結前の数値)。
- 同業VC大手他社との比較においても、極めて良好な業績でした。
- IPO件数は10件でしたが、うち出資比率が10%超の企業が6社と、比較の出資比率の高い投資案件が中心でありました。2008年3月期のIPOは22件の予定です。

投資領域と運用資産規模の拡大

- SBIキャピタルは企業再生分野の3つのファンドをネットIRR20%前後で償還。良好なトラックレコードを元に、新たに231億円のバリューアップファンドを立ち上げ、2件の投資を実行しました。
- SBIグループ全体の運用資産規模は、合計で6,303億円に達しました。内訳は、IT・バイオ、パイアウト・メザニン、海外、直接投資を含めたプライベート・エクイティ分野で合計2,953億円、投資信託・投資顧問等の分野で2,877億円、不動産分野で合計473億円となりました(いずれも2007年3月末現在。一部予定を含む)。
- 第4四半期より住宅不動産関連事業のセグメントへ変更となったSBIモーゲージの住宅ローン実行残高は、前期末比42%増の2,928億円となりました(2007年3月末現在)。証券化で培ったノウハウを活かして「不動産投資ローン」を新たに開発し、順調に残高を積み上げております。

SBIイー・トレード証券、オンライン証券の雄から証券界の雄に向けて

- オンライン専業証券としては国内最大の口座数、株式委託売買代金、預かり資産を有するSBIイー・トレード証券は、連結営業収益574億円(前期比4.7%減)、連結経常利益245億円(前期比18.3%減)と前年同期比では減収減益となりましたが、下期においては前四半期比では増収増益となり回復基調をみせています。
- 圧倒的なブローカレッジを背景に、IPO引受では通期で121社となり、主幹事案件も同じく3件を獲得しました。
- 2007年3月末の総合口座数は1,405,897口座となり、年間では238,119口座を獲得しました。
- 金融収支は前期比43.5%増の133億円と大幅に拡大しました。また、先物オプション取引では、第4四半期に過去最高収益となる418百万円となるなど、収益源を多様化させております。
- 2007年3月期の個人株式委託売買代金シェアは、前期の23.1%から29.4%へと躍進しました。また、2007年3月の月次での同シェアは、過去最高の36.3%を記録しました。
- 子会社E*TRADE Koreaは、2007年2月21日に韓国KOSDAQ市場へ株式上場しました。
- ネットとリアル経営資源の融合を図り、SBIイー・トレード証券とSBI証券との合併を発表いたしました。

時流に乗り引き続き好調に業績を拡大させた公開子会社群

- 投資信託の評価情報等を提供するモーニングスターは、資産運用ニーズの高まり等を背景に、2008年3月期第一四半期の連結売上高・営業利益はともに、前年同期比90%超の増収増益を達成しました。
- 比30%増の過去最高を更新しました。
- ゴメス・コンサルティングは、ウェブサイトの制作や評価業務が順調に推移し、2008年3月期第一四半期決算は、売上高・営業利益ともに前年同期
- SBIベリトランスの通期決算は、EC市場やクレジットカード市場の拡大等を背景に順調に成長を続け、売上・利益の全項目において、単体で過去最高を更新しました。

順調に成長を続ける特色あるファイナンシャル・サービス事業群

- 「イー・ローン」「インズウェブ」を中核とする国内最大級に成長した金融系比較サイト事業では、モバイル経由での取引が好調で、取引件数は前期比30%増の80万件となり、安定的に収益を拡大させています。
- 上限金利問題を好機とするSBIイー・コール・クレジットは、債権譲受などにより貸付残高及び稼動顧客数を大幅に増加させ、営業開始からわずか2年半で単年度黒字化を達成しました。
- SBIカードは業界トップクラスの高機能カードの強みを活かして発行枚数を堅調に伸ばし、発行開始後半年で9,000枚を超えました(2007年3月末現在)。
- SBIテクノロジーが提供する、複数金融機関の口座を一元管理できるソフトウェア「MoneyLook」では、ユーザー数が57万人を超えました。
- 生活関連ネットワーク事業も順調に成長し、比較検索サイト事業と仲介マーケット事業が通期で黒字化を達成しました。

(※SBIモーゲージは、2007年3月期第4四半期より事業区分をファイナンシャル・サービス事業から住宅不動産関連事業へ変更しました)